

平成29年度「飼料用米多収日本一」コンテスト受賞者の取組概要

茨城県農業再生協議会長賞 山田 一則(常陸太田市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
夢あおば	3.7ha	754kg/10a	236kg/10a

【多収品種への取組状況・作付品種】

H26年 ゆめひたち 146a
 H27年 夢あおば 396a
 H28年 夢あおば 396a
 H29年 夢あおば 367a

【取組の理由】

- ・収入金額が予測しやすく、経営の安定につながる。
- ・作業体系に合っている。「コシヒカリ」の収穫後すぐ「夢あおば」の収穫作業ができる。

【取組概要】

- ・播種 1箱 130g(薄まき)
- ・施肥 飼料用米専用一発肥料(40kg/10a)
- ・水管理 中干し、間断灌水
- ・株間 21cm(H27,H28)から18cm(H29)に変更
 「夢あおば」は分けつが少ないため、株間を狭め、株数を確保

鹿島地域飼料用米生産利用推進協議会長賞 農事組合法人 長戸北部営農組合(龍ヶ崎市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
夢あおば	19.8ha	666kg/10a	137kg/10a
オオナリ	8.4ha	783kg/10a	254kg/10a
合計	28.2ha	701kg/10a	170kg/10a

【多収品種への取組状況・作付品種】

H26年から飼料用米として「ホシアオバ」の生産を開始し、H27年に「夢あおば」、H28年に「オオナリ」を導入し、収量性・栽培性の面から、現在は「夢あおば」と「オオナリ」で飼料用米に取り組んでいる。

【取組の理由】

米価が低迷する中、国の制度を活用して所得を安定的に確保することが重要だと考え、「ホシアオバ」で取組を始めた。

【取組概要】

- ・収量を確保するため、収穫後に豚ふん堆肥を1,000kg/10a施用し、地力を高めて栽培を行っている。
- ・飼料用米専用品種に適した基肥一発肥料を試験し選定する等、品種の特性を最大限に発揮できる肥培管理を心がけている。
- ・省力化の取組として、基肥一発肥料をベースとし、生育が足りない場合は追肥として安価な肥料(尿素)を使用した流し込み追肥を行い、肥料費を節減している。

協同組合日本飼料工業会企画振興委員長賞 椿山 勝一(水戸市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
月の光	1.05ha	744kg/10a	203kg/10a

【多収品種への取組状況・作付品種】

H24年からH26までWCS「夢あおば」を栽培。H27,28年は飼料用米として「ゆめひたち」を栽培し、H28年の収量は770kg/10aだった。H29年は県関係者が「月の光」を推進に来たこともあり、「月の光」に切り替えた。主食用米の「ふくまる」も、毎年11俵は収量がとれている。

【取組の理由】

- ・収量680kg得られれば、WCSよりメリットがある。
- ・飼料用米は防除回数が少なく、フレコン出荷できる点が良い。

【取組概要】

- ・基肥に飼料用米専用肥料を使用したがる、葉色が淡くなった際には、追肥を行う。本年の「月の光」では、6月中旬、8月入っですぐ、8月中旬の3回実施。
- ・全面積、陸田のため、全圃場、毎日、入水する必要がある(井戸水)。また、畦畔をモグラ等が穴を開けると水持ちが大変なため、毎日、朝晩、全圃場の畦畔を1周して見回っている。この際、稲の生育を見ることで(主に葉色)、追肥を実施する目安としている。葉色の濃淡の判断基準はこれまでの経験により頭に入っている。
- ・耕起はロータリーだが15cm程になるよう、できるだけ深く起こしている。以前は10cm程で起こしていたが、15cmに変えてから根張りが良くなっていると感じる。
- ・コンバインによる刈り取りについては、速度を落とせば問題ない。どの品種でも680kg/10aを越えたとコンバイン速度を落とした方がよさそう。
- ・栽植密度は50株/10a。
- ・「月の光」はさらに追肥を増量することで、多収を見込める品種と感じたが、680kg/10a以上多収になってもメリットが無いため、今回の追肥回数・追肥量となった。「月の光」はいもち病に強く、「ゆめひたち」「ふくまる」より倒伏に強いいため、追肥を安心して実施でき、多収を狙える良い品種だと思う。